

【米子市小体研 全体授業研究会】

参 加 者：米子市小体研会員 13 名

○協議の柱

「する」「見る」「支える」「知る」の見方，考え方について
授業者の意図が感じられる授業展開であったか。
類似の運動（アナログン）の活用は有効であったか。
準教科書「わたしたちの体育」の活用がみられたか。



○成果

- ・各グループでの子どもたちの関わりが多く見られた。
⇒友だちの動きに「それは何をしているの？」などイメージを共有していた。
- ・「ダンスウォームアップ」で体育館を広く使えていて、「空間のくずし」を意図していることが明確だった。
- ・「なりきりごっこ」で新聞紙やぞうきん，忍者を題材に選んだのはよかった。
⇒ぞうきんを複数枚準備し，集めたり，散らしたりすることで本時の「空間のくずし」の動きを伝えようとする指導者の意図が明確であった。
- ・授業時に「わたしたちの体育」が持ち込まれ，これまでの学習のふり返りが記されていた。

○課題

- ・本時に身につけさせたい動き（めあて）を子どもたちは意識できていたか。
⇒地震を表現するグループ＝友だちの体をゆすっていた。
↳「空間のくずし」のイメージの共有が難しかった。
（フロア）めあてを意識させる「問い」が必要。
→「もっと○○」が表現を導き出すキーワード
- ・指導者が本時のめあてをどの程度と捉えていたか。
（フロア）限られた空間の中でもその中でくずしを意識できていればよいのではないか。
→指導者が表出させたい動きを把握しておく。（それに合った題材選定，声かけを行う。）
- ・「大脱出」という題材についてはどうか。
（フロア）4～5人グループを「脱出する人」と「変化をもたらす外的要因」に分けなければならない。⇒人数の制限がかかり，「激しい（ダイナミックな）動き」になり難い。
（フロア）みんなが1つの題材で動くともっと多様な関わりに繋がったのではないか。
（授業者）表現運動は感性が大切だと考える。
⇒子どものイメージの差があるとグループで表現していくことが難しい。
↳普段から様々なことに関心をもち，周りを見る目（心）を養いたい。
（フロア）イメージの共有を図る手立てが必要。（題材に関する動画の視聴など）
- ・「なりきりごっこ」で指導者が意図した動きが出なかったときどう対応するべきか。
（指導者）何とか子ども達から動きを引き出したかったため，時間をかけたことが反省点。
（フロア）子ども達で表出しない動きは，指導する必要があるのではないか。
⇒中央から弾ける動きを指導により表現をして終わってもよかった。

(フロア) 人数と場，活動も含めて，指導者が意図するものに迫ることができるかを考える必要がある。

- ・本時ではふり返りの時間が十分に確保されていなかった。

(フロア) ふり返りをしたときに「空間」を意識したものになっていたかが肝。

⇒だからこそタイムマネジメントを意識し，ふり返りを時間内に行いたい。

(指導者) ふり返りで「高低」「はじける」などの言葉で表現している子どももあった。それを活動中に共有するとよかった。